

# Computer Report

Vol. 58 No. 8 8月号 (通巻 767号)

## はじめの言葉

■オウム真理教元信者の死刑囚 7名の刑が執行された。まさに平成 30年間にわたっての大事件である。刑の執行が遅過ぎたという意見もある一方で、全容解明のされる前の執行を無念だとする考え方も示されている。いずれにせよ、人騒がせ、世の中騒がせの最悪事件首謀者たちの刑執行だ。平成の御代をかけての解明が、まだ終わっていないと言われるなか、終わっていなかった残された 6名の死刑も執行された。

■人間が、人間であるが故の失敗は、確かにある。犯した失敗を償うために罰を受ける。死刑も罰のひとつである。様々な立場／観点／立ち位置から、死刑制度絶対反対を唱える論がある。時として現在の裁判制度が犯す冤罪のリスクを根拠にする論に代表される。裁判制度による断罪も人事、すなわち人の行いである。それ故の失敗もあるということだろう。しかし人間はその失敗は恐れるべきでない、オウム事件での死刑執行に思う。

■宗教信仰の自由論は、基本的人権を相互に尊重し合い生きていくことの証しのひとつとして確認されているものだ。これまでの歴史から人間が学び取った知恵でありコンセンサスである。宗教人を名乗りながら、自らの宗教活動の意に添わない周囲に対して無差別テロを実行した集団首謀者を断罪するに何を迷い、躊躇するか。確かにその断罪にも一片の失敗／過ちが宿るかもしれない。しかし他の罪なき人の命を奪い去った罪は罪である。

■罪なき者が、突然にして命を失なわれる。人として、これほどの悲しみはない。現実として瀬戸内地方を襲った豪雨／水害で多くの人々が被災し、多くの尊い命が失われた。日本で最も温暖かつ穏やかな気候に恵まれ、自然災害が少ないとされていた地域／地方での被災だっただけに殊更大きな衝撃が日本中に駆け巡った。ちなみに、今回の西日本豪雨では、死者行方不明者は 2百数十名余で、平成の御代、最悪の水災害犠牲者になっている。

■近年は毎年のように異常気象が言われ、今年の雨季も単なる梅雨前線というレベルではなかった。広島／岡山県に集中して犠牲者が多かったが、家屋／ライフラインなど地域全体の住環境の被災状況、自然環境的な被害状況は、今後の調査を待つ。自然災害が少ないとされてきた地域／地方の裏をかかれた格好だ。台風上陸が多い高知県の被害が比較的少なかったことと合わせ検討してみる必要もあるかもしれない。

■エルニーニョ／ラニーニャ現象という太平洋赤道域から南米沿岸の海面水温の状態が世界中の異常天候の原因だと言われる。各国が自国周辺の気象状況の観測データからだけでなく、全地球規模の観測データから気象予測をすることが常識化している。背景にはスーパーコンピュータテクノロジーの活用がある。おかげで未来予測としての気象予測的中率が上がっている。にもかかわらず日本は、その成果を活かし切れていない。

■人としての過ちには許されるものがあれば、許されないものがある。誤解を恐れずに言うが、オウム関係者の死刑執行、許されると思う。異常気象の中、長年の安全／安心神話を抜本的に見直しもせず、被災を繰り返すこと、許されない。平成の御代稀有な犠牲者を出した今回の大災害が、今現在進行形で起ころうとしている時、与党自民党の首脳は、ほぼ全員が参加して「赤坂自民亭」なる酒宴を開いていたという。許されない。(藤見)